（別紙4）　　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4151080043		
法人名	医療法人　源勇会		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字早津江263番地		
自己評価作成日	令和3年11月9日	評価結果市町村受理日	令和4年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人　佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市ハ戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和4年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同一敷地内に併設の医療機関があり24時間医師、看護師と連絡可能な環境。ホームにも看護師が配置されており、病気の早期発見、治療に繋ぐことが可能であり、利用者、家族ともに安心できる環境となっている。
利用者の出来ることを全職員で共有し計画作成に活かし取り組めるように3ヵ月に1度カンファレンスを開催し、職員の意見やアイデアを出しあっている。
感染症対策にて、面会も一部制限中、ご家族にはオンライン面会や窓越し面会等を協力いただき、会えない期間の様子は写真や動画などで不安を感じられないように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

筑後川の近くに位置し、緑豊かな環境に佇むホームは、平成16に開設し、職員の定着率も高く、安定した運営がなされている。広い敷地には母体法人が運営する病院や介護老人保健施設、有料老人ホームがあり、コロナ禍前は日常的な交流が行われていた。現在、面会や地域との交流が制限されているが、ホーム内を動画に収め家族や訪問者に玄関先で見てもらう取り組みを開始し、コロナ禍でもホームの中の様子が外部に見えるよう工夫がなされている。屋内は木造平屋建ての回廊式で、掘り炬燵と床の間をしつらえた和室があり、各居室やリビングからは中庭を眺めることが出来る。玄関を入ってすぐの壁がガラス張りのため、解放感があり、職員や入居者の顔も見えやすい造りとなっている。入居者の生活に視点を置き、丁寧なケアを心掛けているホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印 A	B	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）			1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
		○	○	3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）			1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
		○	○	3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
		○	○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印 A	B	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）			1. ほぼ全ての家族と
		○	○	2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度
				3. たまに
		○	○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）			1. 大いに増えている
		○	○	2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）			1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
		○	○	3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う			1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
		○	○	3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（ユニット名） 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念を週変わりで申し送り後唱和している。理念に沿った介護に努められるよう勉強会等を通じ呼びかけている。	理念は事務所に掲示し、職員がそれぞれいつでも確認できる環境を整えている。また、勉強会では理念を具体的な行動に落とし込んで考える場面があり、全職員が理念を共有し実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のまちづくり協議会への参加、年に1度地域のお祭り神事への参加、運営推進会議へ他のホームの方に参加頂き、継続的に交流できるよう努めている。	自治会が運営するまちづくり協議会に法人として参加しており、ホームとしても地域活動を行っている。コロナ禍で制限された中ではあるが、地域との良好な関係は継続している。しかし、入居者が地域と交流する機会には不足が見られる。	入居者が地域と交流する機会の確保について、職員での検討に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のまちづくり協議会に参加し、ホームについての理解を発信できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のグループホームの方にも参加して頂き、ホームの現状について話し合い、得た意見などを行かせるように努めているが、取り込むには至っていない。	コロナ禍による書面での開催を含め、適切な開催がなされている。議事録も整備されており、いつでも閲覧することができる。しかし、現在、家族や地域からの参加がない。	家族や地域からの参加に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や町づくり協議会への参加にて、おたっしゃ本舗、民生委員や、区長などに相談できる関係づくりに努めている。	市の担当者とは運営推進会議で顔を合わせる他、地域包括支援センターから相談が入る等、市とは良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、自動ドアであるが、手動での対応を実施。ご家族には理解を求めている。身体拘束等については勉強会にて周知を図り、日々取り組んでいる所在確認を行い、利用者の気持ちに寄り添い行動の制限をしない様呼びかけ実践している	現在、身体拘束は行っていない。近隣のグループホームと身体拘束に頼らないケアの実践について情報共有し、1年に1回の勉強会をとおして、言葉遣いを含め職員に対し周知を徹底している。しかし、研修の頻度が少なく、身体拘束適正化委員会の設置はこれからである。	研修に参加する機会の確保や、身体拘束適正化委員会の設置に向けた検討が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年に1度は勉強会を開催し、情報を共有している。言葉かけや行動の制限についても日々、確認や呼びかけ行い利用者の性格や状態を考慮し対応を心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価（ユニット名） 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度勉強会を開催し、情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点については解消できるように努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望や意見について、対応可能な事項に関しては、取り組むように努めている。外部への表出は運営推進会議のみである。	感染状況に応じて面会方法を工夫し、窓越し面会や写真・動画の活用で本人の様子が家族に伝わるよう努めている。また、家族に対する接遇も管理者から職員に周知しており、家族が意見や要望をホームに伝えやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善点等は申し送りや勉強会で話し合い、介護支援に活かせている。	随時話し合うよう努めており、月1回開催する勉強会ではすべての職員が意見を言えるよう、管理者はヒアリングシートを作成し個々の職員へ配慮している。必要時には個別に話を聞く機会も設け、職員が意見を言いやすい職場づくりがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の就業意欲や実績、勤務状況に応じ、給与水準や職場環境の整備に努められている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は推奨されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍においては難しい状況だが、運営推進会議に他施設の方の参加もあり今後、相互に訪問等の交流ができるように努めていく方向である。		

自己	外部	項　目	自己評価（ユニット名） 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は初期プランを立案し、暮らしに慣れていただき、様子を観察し、困っている事、不安なことなどを見極めケアに活かせるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安な事を相談しやすい関係づくりに努め、現在は電話にて近況を伝えたり、要望などに耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後は、様子を細目に伝え介護内容の変更や導入について相談をし決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人が家族のような関係づくりに努めお手伝いなどの後には感謝を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策の中、家族に安心して頂けるよう、ラインを利用し画像や動画の送信、写真を請求書に同封する等本人と家族の絆を大切にできるよう支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員の事を自身の知人と思い込み呼ばれる方もあるが、否定はせず関わっている。通所サ―ビス等の知人との面会などは、現状出来ていない。	これまでは友人や知人の訪問も受け入れており、自宅等の馴染みの場所へのドライブも行っていた。現在はコロナ禍のため面会や外出は控えているが、年賀状や手紙のやりとりが続くよう、家族と協力し関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格や他者との関り方を考慮し食事や活動時の席の配置をかえる等工夫をしている。利用者同士の関わりに関しても仲介や仲裁に入り関係づくりに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価（ユニット名） 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談を受けたことは無いが、医療機関等でお会いすることもあり、これまでの関係性を大切にし、近況をうかがう機会はある。		
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	１人１人の思いを普段の暮らしの中で聞き取ったり、推測しカンファレンス前の意見表などを活用し本人本位での暮らしとなる様に努めている。	1対1の場面で本人の思いや意向を聞きとる事が多く、表情や仕草からも本人の意思をくみ取るよう努めている。返事をしやすい言葉かけの他、筆談や五十音表も取り入れ、個々に応じたコミュニケーションが図られている。得られた思いや意向は、申送りノートを活用し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報はカルテや申し送りにて共有し把握に努めている。馴染みの物を居室に置かれている方もあり、好きなこと得意なことを続けて頂けるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する利用者の様子について、申し送りやカルテで情報の共有に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況や予想される課題について家族にも分かりやすく説明行い介護計画の作成実施している。カンファレンス前には意見表に全職員が意見やアイデアを出し介護計画に活かしている	継続性を重視し、現状に即した介護計画が作成されている。本人のよりよい生活を実現するため、作成する際は、本人、家族、介護者、理学療法士、作業療法士、看護師、医師、栄養士等からも意見を収集し、3ヶ月に1回のモニタリングで検討している。ケアチェック表で日常的に介護計画を意識したケアを行うための工夫もなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことも記録を残しカンファレンス時の意見表等に活用し介護計画の見直しや医師への相談、受診等に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々のニーズに対しては、可能な範囲で対応できるよう、職員間で意見交換行い取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価（ユニット名） 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年実施されている近隣の神社の神輿くぐりは、コロナ対策にて神事のみ開催、法人の祭りは中止で思うように交流もできず、暮らしを楽しめているかは分からない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、24時間連絡が可能で十分な医療が受けれるよう支援できている。月に一度は受診し、気がかりなことも常に報告、相談できる体制が取れている。	隣接する運営母体である医療機関をかかりつけ医院とする入居者が多く、日常的に情報共有しており、24時間体制で医療面のサポートも手厚い。専門医の受診も適切に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、些細な気がかりも相談することができており、受診に結びつくこともでき、早期発見に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医への入院時は、医院の協力にて面会等行い環境の変化を感じないように気がけている。他の医療機関とも退院後の生活についてが無いように、連絡を取り合い情報を共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際には今後に備え説明は行っている。身体状況の変化に応じ、家族には連絡を取り合い、必要に応じかかりつけ医からの説明を受けられるよう、又、医院と協力し方針を共有できるよう努めている。	看取りに対応している。入居時の他、状態変化時に都度、本人及び家族に重度化した際のケアについて説明し、話し合いを重ねながら支援方針を共有している。また、看取りに関する勉強会を開催し、職員が共通理解のもと、最期まで本人らしく変わらない暮らしの実現に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用や心臓マッサージなどについて法人内で訓練する機会がある。状況の観察、医院との連携は図れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力は（近隣の高齢化もあり）現状出来ていない。防災訓練は、消防の立ち合いと自主防災訓練を毎月実施し、全職員が身につけれるよう取り組んでいる	夜間想定を含め年2回の火災避難訓練を実施している。訓練時には入居者も実際に避難場所まで移動し、意欲的にできるよう楽しみながら訓練を行うよう努めている。地域の高齢者施設間の協力ネットワークにも参加している。食糧等の備蓄は、隣接する同一法人の施設内に確保されており、水害に備え垂直避難訓練も実施している。しかし、地域からの訓練参加には至っていない。	災害に備え、消防団や地域と繋がる仕組づくりの検討に期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価（ユニット名） 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いは気を付けているが時々慣れあいになっていることもある。勉強会等で機会ある事に注意喚起は行っている。	接遇の勉強会を実施している。呼称も個々の状態に合わせ、家族が聞いても不快に思わないよう配慮しており、相手の立場に立って考えるよう、日頃から注意し合える環境が整備されている。個人情報の管理も、適切になされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事作業、入浴、活動への参加など場面に応じその都度意思決定できるよう働きかけているが、拒否や離棟につながる言動については自己決定は出来ていない場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の流れは決まっているが、個々の体調や気分を尊重し暮らしていけるよう努めているが、個々の希望には添えていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みのシャンプーや化粧水等持ち込みは自由でその人らしいい身だしなみできるよう支援している。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ感染症対策にて調理は控えている配膳の準備等は手指消毒行い、おしぼり配り、つぎ分け等を勧めている。	日頃から食べたい物を聞くよう努めており、食の形態も含め、食べたい物が食べられる喜びが継続するよう支援している。行事食では、食事で季節を感じるよう工夫し、また、個々人の状態に合わせ調理への参加を促し、食への関心が向上するよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は摂取表にて確認し、水分量は活動時を含め最低限補給できるよう努めている。 個々の状況に応じ、形態も考慮し家族の協力で補食や嗜好品の提供も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に対しては実施出来ていないが、食後の口腔内清掃、うがい勧めている。 歯磨き粉やマウスウォッシュ等個々に応じ使い分けている。		

自己	外部	項　目	自己評価（ユニット名） 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時での誘導を基に排泄確認を行い、パターンの把握に努め、トイレでの排泄を勧めている。トイレ内に排便時のお知らせの掲示や、汚染物を入れてもらうバケツの設置など個々の出来る事への支援に努めている	ホーム内には10ヶ所のトイレがあり、排泄チェック表を活用し、重度化した場合も出来るだけトイレで排泄出来るよう支援に努めている。個々人に合わせた声掛けを行うことで、排泄の自立度が上がった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動を働きかけたり、家族の協力で乳製品を提供するなどここに応じ取り組んでいる。医師に相談し内服薬にて調整を行うこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は設定しているが、体調不良や受診等の際には、柔軟に変更できる	週2～3回の入浴を基本としている。個々人の希望に合わせた入浴を心掛けており、シャンプーやリンス、ボディソープは本人や家族の希望に合わせた物を使用し、入浴を楽しめるような支援がなされている。ゆず湯等、季節の風呂を楽しむことも出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体調に応じ、日中はできるだけ活動に参加促し夜間良眠できるよう工夫している。日中も個々の体力に応じ適宜休息できるよう努めている。不眠については医師へ相談し内服治療等対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服について全てを把握は出来ていないが、追薬、減薬、変更については、申し送りやノートで共有している。看護師にも確認することができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計画作成にも取り入れ、役割や楽しみごと、嗜好品の提供も適宜できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ2年程は感染症対策の為外出の支援は実施出来ていない。お花見を敷地内で実施や敷地内の散歩がやっとの状況	コロナ禍のためドライブや買い物等の外出は自粛しているが、広い敷地内を日常的に散策し、四季折々の草木や花を楽しむ支援がなされている。コロナ禍が終息した際は、ドライブや買い物を再開する予定である。	

自己	外部	項　目	自己評価（ユニット名） 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍に於いて、外出の支援は出来ていない。現金を所持されている方が自販機で購入するくらいである		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば取り次いでいる。便箋や切手を準備され体制を整えてある家族もある。意思表示の難しい方にはラインにて近況報告（動画、写真）を行うこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者の作品が季節ごとに掲示され、季節の流れを感じたり、会話のきっかけにもつながつている。	共用空間には写真や入居者の作品が数多く展示され、季節を感じるとともに楽しく暖かな雰囲気を醸し出している。トイレ掃除は毎日外部の業者が行い、清潔に保たれている。トイレや居室をわかりやすく表示することで、入居者の混乱を防ぐ工夫もなされている。消毒や換気も適切に行われ、快適で居心地の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日、その時に一番落ち着く場所で過ごすことができるよう、気の合う者同士の談話や交流ができるように気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持ち込むことも可能。身体の状況に応じ配置を家族と共に検討し心地よく過ごせるよう工夫している	テレビや家具の他、茶碗や箸等の食器も本人が使い慣れた物を持ち込むことが出来る。家具の配置は、本人や家族と相談し、安全に配慮しながら決めている。各居室は個性あふれる作りとなっており、居心地よく過ごせる配慮が随所になされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には名前を大きく張り出したり、トイレ内では排便のお知らせをお願いする張り紙を掲示する等、できる事、わかることを活かした支援に努めている。		